

レポート

九州北部豪雨 激甚災害指定へ

野田首相が阿蘇市を視察

野田佳彦首相は7月20日、九州北部豪雨で未曾有の被害を受けた阿蘇市を視察し、「激甚災害指定に達するほどの被害。早期復旧のため指定の手続きを速やかに進めるよう指示した」と語った。野田首相を取材すると共に、今も災害の爪痕を残す同市一の宮町の被災現場をレポートした。

午後1時に阿蘇市入りした野田首相は、阿蘇市役所で蒲島郁夫知事や佐藤義興市長らと意見交換。「早期復旧のため激甚災害指定の手続きを速やかに進め、被災地の復旧に全力を挙げる」などと語った。この後、190人余りの被災者が身を寄せる一の宮中学校体育館を訪ね、被災者に歩み寄り、政府として全力を尽くしますので、皆さんもがんばってください」と声をかけ、被災者を励ました。野田首相は、5人の死者、行方不明者が出た一の宮町三野の山腹崩壊現場を視察した後、大分県日田市、福岡県柳川市の被災地へ向かった。

「これまでに経験したことのないような大雨」という表現が初めて使われた今回の集中豪雨は、甚大な被害を受けた阿蘇市を中心に10数箇所で大規模な土砂崩れを引き起こし、19人が死亡する痛ましい災害となった。熊本地方気象台によると、12日の豪雨は午前2時から激しさを増し、阿蘇市乙姫では1時間に観測史上最大の108ミリを記録、土砂災害の引き金となった。



▲20日午後、避難所になっている一の宮中学校体育館を訪問し、被災者を励ます野田佳彦首相。右は佐藤義興阿蘇市長、蒲島郁夫県知事



▲視察現場で記者団に囲まれる野田首相は、「災害の爪痕の大きさを実感した」と語り、被災地の早期復旧に全力を挙げる考えを示した



▲同日、現地を訪れた参議院災害対策特別委員会のメンバー。県選出議員では松野信夫参議と松村祥史参議が参加した



▲被害が大きかった一の宮町古城地区では、倒壊した家屋をショベルカーなどの重機を使って、土砂やがれきの除去作業が行われている



▲水害で壊れた一の宮町古城地区のビニールハウス。阿蘇地区では少なくとも500ヘクタール以上の農地が冠水したとみられている



▲土砂で家屋が倒壊した一の宮町古城地区の民家。県道11号別府一の宮線は今も通行止めとなっており、災害の爪痕を残す